



THE  
TREES OF  
JOUMON  
の



第12号

2022, 6.1

水子貝塚公園・水子貝塚資料館ニュース

水子貝塚資料館

検索

資料館 HP

QRコード



編集・発行：水子貝塚資料館

☎ 049-251-9686

〒354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003-1

FAX 049-255-5596

## 正網遺跡で縄文時代後晩期の住居跡を35年ぶりに発掘

富士見市南部、大字水子の性蓮寺<sup>しょうれんじ</sup>が建っている場所は、柳瀬川の低地から「一」状に入り込む谷となっています。この谷の北側の台地上は、正網遺跡<sup>しょうあみ</sup>という市内では唯一の縄文時代後期後半から晩期前半（約 3,800 年前～約 2,600 年前）の遺跡です。

昭和61年（1986）の発掘調査で、後期後半の竪穴住居跡が1軒発見されました。そして令和2年にその周囲の約 6,000 m<sup>2</sup>が宅地開発されることになりました。宅地建設予定地は現状保存（遺跡が開発によっても破壊されない深さに存在することから、発掘調査をせずにそのまま保存すること）とし、新設される道路部分のみの約 1,500 m<sup>2</sup>が発掘調査の対象となりました。

調査の結果、新たに縄文時代後期後半から晩期前半の竪穴住居跡が9軒も見つかりました。それまで、たった1軒に過ぎなかったのがいきなり10倍にも増えたのです。しかも、未調査部分にはあと10軒くらいは眠っているそうです。しかし、約1,200年間という遺跡の存続年数をふまえると、一時期には1～2軒の住居しかないとしても小さなムラだったと想定されます。発掘調査により多量の土器や石器が出土し、それ以外にも土偶や土製の耳飾りも見つかっています。耳飾りは、この時期に大量に製作されるようになり、細かい模様や赤彩を施した優美なものが多いことも特徴です。



5号住居跡

複数の炉跡や多数の柱穴があり、いくつかの住居跡が重なっている可能性が高い。

後期から晩期は遺跡数が減少し、富士見市を含む武蔵野台地には数カ所しかありません。しかし、荒川低地を挟んで東にある大宮台地には、高井東遺跡（桶川市）、後谷遺跡（桶川市）、馬場小室山遺跡（さいたま市）、真福寺貝塚（さいたま市）、など多くの遺跡が存在します。たとえば、真福寺貝塚は谷頭の湧水点に近い台地上にムラが営まれています。また、谷底からは木枠を組んで水を貯めた水場が発見されたこともあり、谷と台地が生活の場としてセットで利用されていることが多いようです。正網遺跡も湧水点に近い台地上にあり、現在は埋没している谷の底には、水場があったのかもしれませんが。

今回発掘された資料は、8月から水子貝塚資料館で展示する予定です。



正網遺跡の位置



正網遺跡の範囲と調査地点



土製耳飾り

直径2cm大から5cm大までさまざま。中央のものは透かし彫りで赤彩されている。



耳飾りをつけた縄文人のイメージ



## 展示室フ千百科 Vol. 6

### ひかわまえ ちゅうこうどき 氷川前遺跡の注口土器

水子貝塚公園から北西に位置する発掘調査地点で出土した、縄文時代後期中頃の縄文土器です。注口土器とは、注ぎ口と紐などを通し持つための取手が付いた、現代の土瓶や急須と同じような形のもので、縄文時代後期にこのスタイルが成立します。

この注口土器は、ほぼ完全な形状を保っており、そのフォルムの美しさや同時期の類例が少ないことから、考古学研究者の間ではよく知られている土器です。器高 13.8 cm、口径 8.2 cm、胴計 14.7 cmを測ります。口縁部から頸部にかけては円筒形で、胴部はソロバン玉の角を丸くしたような形をしています。文様は、頸部は縦 2 列、横 3 段に楕円の線を引いて、中に細かい点をうっています。また、肩部、注口部、取手にかけては、楡状の工具で三角形の模様を描き出しています。

器面は、全体がていねいに磨かれ、黒色をしています。注口土器をはじめとするこの時期の土器は、わざと黒色にしているものが目立ちます。通常の土器の焼き方では黒くはなりません。縄文土器づくりサークルの行っている方法は、一斗缶に詰めた籾殻の中に焼いてすぐの熱い

状態の土器を入れ、そのままフタをしてしばらく放置します。すると籾殻が炭化し、それが土器の器面に吸着して黒くなります。もちろん、縄文時代には籾殻も一斗缶もありませんから、フタのできる大きな土器に樹木の葉などを詰めて行っていたかもしれません。

注口土器の使用方法はよくわかっていません。液体を入れたことは確かなのですが、それが酒なのか、果汁や水なのか。また、祭りや儀式などの特別な日に使用したものなのか、それとも日常的な道具なのか、とても謎めいた土器なのです。



### 市民学芸員手作りのコイノボリをGWに配布

昨年に引き続き、市民学芸員が製作したコイノボリをゴールデンウィーク中に来園者に無料で配布しました。当初は 200 本の配布を予定していましたが、とても好評でもらいにくる人が後を絶たず、急遽 100 本を増産しました。水子貝塚公園は小さな子ども連れの家族が多く来園します。新聞の折込広告の竿、紙の矢車・吹き流し・コイと、コストはほとんどかかっていませんが、切ったり貼ったりのパーツが多いため組み立てには労力と時間がかかります。しかし、子どもたちがコロナ禍でも明るく健やかに成長して欲しいとの願いを込めて、市民学芸員が一つ一つ丁寧に製作しました。

風を受けてクルクル回る矢車や泳ぐコイを見て、子どもたちはとてもうれしそうでした。また、孫にあげたいと言って持ち帰るご年配の方も多く見受けられました。

今年は、水谷地域で子ども食堂を開催している団体からも依頼があり、25 本を製作し提供しました。来年もぜひ続けてもらいたいものです。



### 市制施行 50 周年記念武者行列を開催

水子貝塚資料館が主体となり、5月28日(土)に川越藩火縄銃鉄砲隊保存会とららぼーと富士見の協力のもと、市制施行 50 周年記念として武者行列が行われました。星野市長を総大将とし、副市長、教育長、市議会議長、副議長、そして公募市民による総勢 50 名による武者行列でした。

午後 1 時に市役所を出立し、ららぼーと富士見の 1 階フロアを一周しました。ららぼーと富士見では、こうしたイベントは初めての試みでした。買い物に訪れていた方も興味深そうに見学していました。

当日は、普段水子貝塚で活動している市民学芸員も行列をサポートし、武者行列を盛り上げました。

市制 50 周年を市民とともに祝い、PR するとても良い機会となりました。

